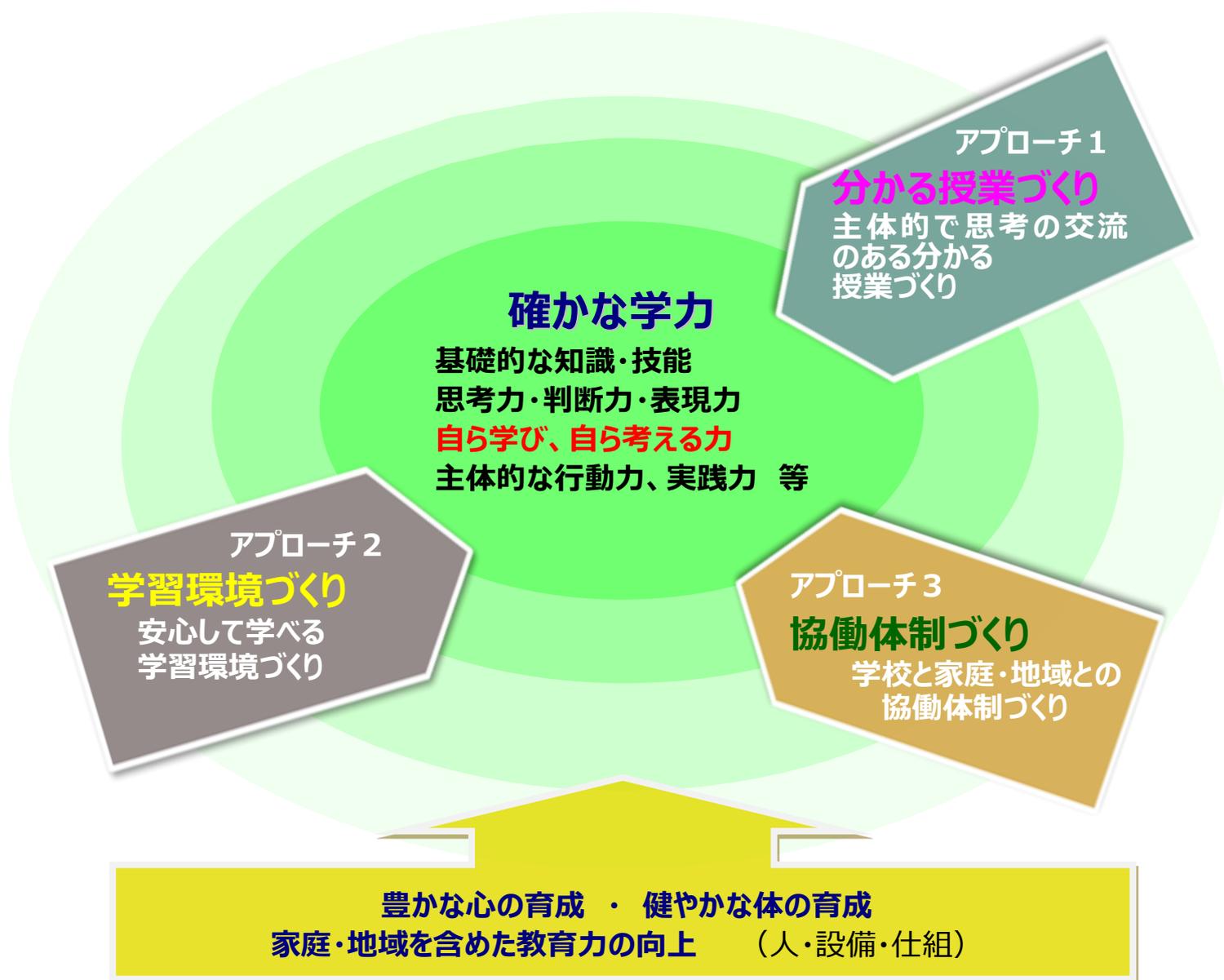


第 2 次

学力向上「総社っ子輝きプラン」



— 人間力日本一の総社っ子を目指して —
そうじゃっこ



総社市教育委員会

I 第2次 学力向上「総社っ子輝きプラン」の概要

社会経済の在り方が大きく変化している中、子どもたちが将来自分の力で様々な困難を乗り越え、自分の道を切り拓いていくために必要な「生きる力」を養うことは不可欠である。

「生きる力」とは、「**確かな学力**」「**豊かな人間性**」「**健やかな身体**」が挙げられるが、これをバランスよく育むことは学校教育において重要である。

総社市では、これらの力を人として生き抜く力すなわち『**人間力**』と名付け、『**人間力日本一の総社っ子**』を合い言葉に、人間力あふれる子どもを育成していきたいと考えている。

そのために、平成25年度から3年間の計画で、「**確かな学力**」の育成に重点をおき、数値目標を掲げ、学力向上「総社っ子輝きプラン」に取り組んだ。本プランの一番のねらいは、市教委と各学校が、One Wish One Word で学力向上に向けて取り組むことにあった。また、計画的に取り組むとともに取組の検証を行うことにより、改善を図っていくという組織的で継続的な学力向上のPDCAサイクルを確立することもねらいの一つであった。

第1次プランでは、そのねらいどおりPDCAサイクルが回り始め、市教委と学校とが連携し役割分担しながら学力向上に向けた取組が進みつつある。

また、第1次プランの目標値に対する評価・検証から、アプローチの一つであった「**だれもが行きたくなる学校づくり**」により、子どもたちの学校適応感の向上が図られ、良好な人間関係づくりがなされている。自尊感情や規範意識の向上により、落ち着いた学習環境が構築されるとともに、児童生徒の主体的な学びが推進されている。さらには、幼小中の連携が進み、学習規律が標準化されつつある。

しかし、「**言語活動を重視した授業づくり**」においては、課題を残した。教科の目標を達成するための授業づくりを目指し、協同学習の深化が必要である。

そこで、**第2次プランでも、その姿勢を継承し、保幼小中15年間を一くくりとして、多様な現代社会の中で生き抜くために必要な確かな学力の向上を目指すことにより、人間力日本一の総社っ子の育成を目指す。**

また、本プランは、単に標準的な学力調査の点数を上げることを目的としているのではなく、社会で生き抜く力、すなわち「**基礎的な知識・技能**」はもちろんのこと、他者と協働しながら、「**課題解決力**」「**学びに向かう力**」や「**情報活用能力**」「**グローバル化に対応する力**」「**持続可能な社会づくりに関わる実践力**」などの**資質・能力の育成**を目指したい。何ができるように、それをどう使うかといった実践するための行動力等を含む広い意味での確かな学力を育成することが、**今求められている『人間力』**であると考えている。

～ そうじゃ教育大綱との関連 ～

平成27年4月、心の教育を重視する三つの大綱「**総社を愛す子供**」、「**心優しい子供**」、「**礼儀正しい子供**」が制定された。

学力向上の基盤となる落ち着いた学習環境を安定的に確立するためには、仲間を思いやる心や規範意識の醸成は不可欠である。また、学習仲間と共に切磋琢磨しながら高め合う力を育成することも学力向上を目指すには必須である。

また、子どもたちには、将来、社会的・職業的に自立し、社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現するための力が求められている。ふるさと総社を愛し、自分が自分として生きるために「**学び続けたい**」「**働き続けたい**」と強く願い、それを実現させていく姿を目指すためにも、本プランは重要な位置を占めると考える。

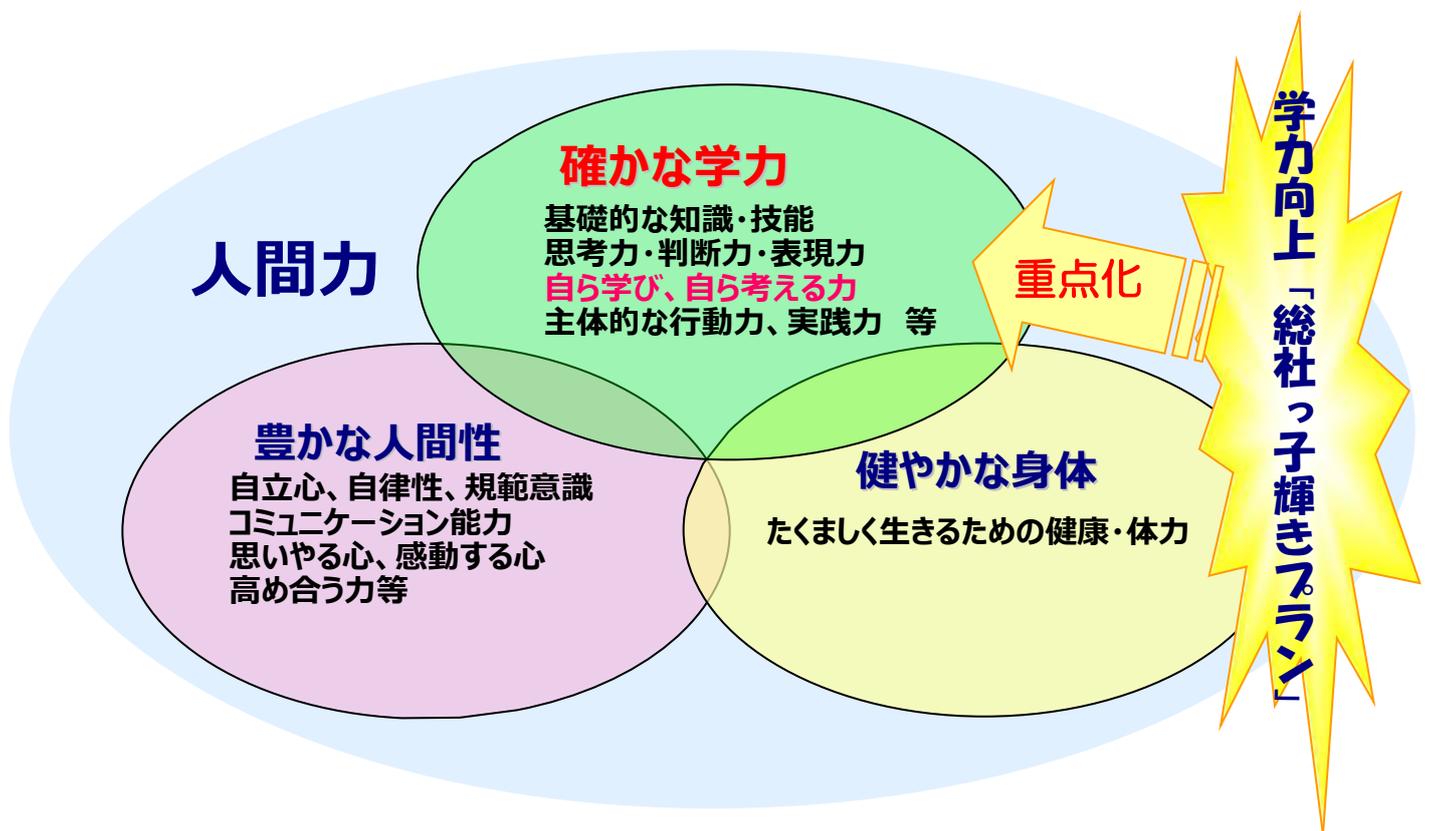
～ 本市の課題 ～

- ①言語活動を重視した分かる授業づくり
- ②家庭学習の質と量
- ③家庭環境の困難さを背景とする学力格差
- ④キャリア教育の一層の充実

Ⅱ 第2次プランのビジョン

確かな学力 基礎的な知識・技能の習得を重視するとともに、自ら学び、自ら考える力を育成することにより、深い理解、資質・能力の育成、学びへの意欲を高める。

⇒ **自ら考え学ぶ姿勢NO.1**



～ 総社市の目指す子ども像との関連 ～

総社市教育振興基本計画の中に、総社市の目指す子ども像「郷土を愛し、夢に向かって共に伸びる子ども」が示されている。「そうじゃ教育大綱」を受けて、学校が、確かな学力とともに、夢や目標に向かって仲間と共に努力する態度を育成するため、家庭・地域と協働してその土台となる健やかで豊かな心と体を育成することは不可欠であるとする。

本プランは、**そうじゃ教育大綱の下、総社市の目指す子ども像を実現させるために、重点化されたプラン**であると位置付けたい。

「**確かな学力**」を身に付けるために、「**思考力**」を中核とし、それを支える「**基礎力**」と、使い方を方向付ける「**実践力**」を、日々の授業において育成する授業づくりが重要であると考える。しかし、授業だけでは限界がある。安心して学べる学習環境の中で、学校と家庭・地域とが協働して子どもたちを育てることは不可欠である。日々の授業と放課後等の補充学習や家庭学習を一連のつながりとしてとらえ、**子どもたちの自ら考え・学ぶ力の一層の向上を図る**必要がある。

このことから、次の三つのアプローチで確かな学力の育成を図る。



アプローチ1 「主体的で思考の交流のある 分かる授業づくり」

子どもたちには、知識・技能を身に付けさせると同時に、思考力・判断力・表現力等と学びに向かう力、実践力等を総合的に育む必要がある。そのためには、学びの量、質、深まりが重要であり、それを求めるためには、課題の発見・解決に向けた主体的・協働的な学びが有効であると考えられる。

本アプローチは、土台となる基礎的な知識・技能の定着を図るとともに、その基礎的な知識・技能を活用することにより、理解が一層深まるような授業づくりを意識させたい。さらには、基礎的な知識・技能の習得と活用力の育成が進むことにより、子どもたちが「分かった」と実感すれば、自ら学びに向かう力も向上し、確かな学力の育成へとつながっていく。



アプローチ2 「安心して学べる 学習環境づくり」

学力向上の基盤となる落ち着いた学習環境を安定的に確立するためには、仲間を思いやる心や規範意識の醸成は不可欠である。安心して学び合い、高め合うことのできる人間関係づくりが基盤となり、夢に向かって自分らしく努力することができる子どもの育成を目指すことが可能となる。

将来を見据えながら、仲間と共に自らの力で生き方を選択していくことができるよう、安心して学べる学習環境を構築していく。



アプローチ3 「学校と家庭・地域との 協働体制づくり」

基本的な生活習慣や家庭での学習習慣の定着は、確かな学力を育成する上での基盤が強固になると考えられる。また、多様な一人一人の子どもたちに対応した具体的な支援のために、学校と家庭・地域とが協働する体制を整えることは重要である。

また、変化する社会の動きや地域の状況を取り込み、学校と社会との結び付き意識した授業等を通じて、子どもたちにこれからの人生を前向きに考えさせることが、主体的な学びの鍵となる。



Ⅲ 数値目標

(平成 31 年度までの達成目標)

1 全国学力調査における目標

市内すべての小・中学校…全国水準を上回る

平成 31 年度調査において、市内すべての小・中学校が

- (1) 教科ごとに**全国の平均正答率を上回る**。
- (2) 平均正答率 **30%以下**の児童生徒の割合を **14%以下**にする。
- (3) 平均正答率 **80%以上**の児童生徒の割合を **40%以上**にする。

学年	国語 A	国語 B	算・数 A	算・数 B
小学校 第 6 学年	H28 74.8% (+1.9 P)	H28 58.2% (+0.4 P)	H28 79.5% (+1.9 P)	H28 47.8% (+0.6 P)
	H27 69.7% (-0.3 P)	H27 64.1% (-1.3 P)	H27 75.1% (-0.1 P)	H27 44.2% (-0.8 P)
	H26 71.9% (-1.0 P)	H26 55.9% (+0.4 P)	H26 76.9% (-1.2 P)	H26 57.6% (-0.6 P)
	H25 61.5% (-1.2 P)	H25 46.8% (-2.6 P)	H25 74.6% (-2.6 P)	H25 57.4% (-1.0 P)
	H24 78.2% (-3.4 P)	H24 50.2% (-5.4 P)	H24 66.8% (-6.5 P)	H24 52.9% (-6.0 P)
中学校 第 3 学年	H28 75.9% (+0.3 P)	H28 66.7% (+0.2 P)	H28 61.2% (-1.0 P)	H28 42.8% (-1.3 P)
	H27 73.3% (-2.5 P)	H27 62.1% (-3.7 P)	H27 60.4% (-4.0 P)	H27 36.8% (-4.8 P)
	H26 79.4% (±0 P)	H26 50.0% (-1.6 P)	H26 67.5% (-0.4 P)	H26 59.3% (-1.2 P)
	H25 78.7% (+2.3 P)	H25 68.6% (+1.2 P)	H25 63.5% (-0.2 P)	H25 40.8% (-0.7 P)
	H24 73.9% (-1.2 P)	H24 61.1% (-2.2 P)	H24 60.2% (-1.9 P)	H24 46.3% (-3.0 P)

小学校第6学年

	H28	国語A	国語B	算数A	算数B	総計
30%以下	総社市	4.1%	18.9%	3.4%	30.2%	14.2%
	全国(公立)	6.6%	20.0%	5.4%	30.3%	15.6%
80%以上	総社市	53.6%	28.2%	62.7%	13.8%	39.6%
	全国(公立)	49.0%	27.8%	59.2%	12.5%	37.1%

中学校第3学年

	H28	国語A	国語B	数学A	数学B	総計
30%以下	総社市	2.5%	17.1%	12.6%	32.2%	16.1%
	全国(公立)	1.9%	16.4%	12.5%	30.8%	15.4%
80%以上	総社市	58.6%	51.0%	24.2%	9.4%	35.8%
	全国(公立)	54.6%	48.5%	28.5%	10.4%	35.5%

2 岡山県学力調査における目標

4教科平均正答率…県内 No.1

平成31年度調査において、市内すべての小・中学校が

- (1) 全教科県の平均正答率を**2ポイント上回る**。
- (2) 平均正答率**40%以下**の児童生徒の割合を**14%以下**にする。

学年	4教科平均	国	数	社	理
中学校 第1学年	H28 64.1% (+1.5P)	H28 65.1% (+0.2P)	H28 69.4% (+1.3P)	H28 59.0% (+1.7P)	H28 63.0% (+2.7P)
	H28 63.6% (+0.9P)	H28 64.5% (-0.4P)	H28 69.0% (+0.9P)	H28 58.4% (+1.1P)	H28 62.5% (+2.2P)
	(県との比較)				
	H27 62.1% (+1.2P)	H27 63.5% (+0.8P)	H27 63.5% (+0.1P)	H27 54.2% (+2.6P)	H27 67.1% (+1.4P)
	H26 58.6% (+0.7P)	H26 68.0% (+0.6P)	H26 59.1% (+1.4P)	H26 54.7% (+0.8P)	H26 52.6% (+0.2P)
	H25 52.7% (-0.5P)	H25 57.8% (-0.2P)	H25 44.0% (-2.2P)	H25 62.9% (+0.5P)	H25 46.1% (-0.1P)
	H24 65.0% (+2.9P)	H24 74.3% (+2.9P)	H24 66.5% (+3.3P)	H24 62.2% (+3.5P)	H24 57.0% (+2.1P)
学年	4教科平均	国	数	社	理
平均正答率 40%以下 の生徒の割合	H28 15.3%	H28 12.2%	H28 8.2%	H28 22.8%	H28 17.8%
	H27 14.2%	H27 13.7%	H27 13.5%	H27 24.0%	H27 5.7%
	H26 21.2%	H26 10.7%	H26 22.9%	H26 24.4%	H26 26.6%
	H25 31.0%	H25 16.3%	H25 45.6%	H25 14.4%	H25 47.6%
	H24 12.7%	H24 5.2%	H24 11.6%	H24 16.8%	H24 17.1%
	H23 16.4%	H23 5.8%	H23 20.5%	H23 23.6%	H23 15.7%

3 全国及び岡山県学習状況調査（学校・児童・生徒質問紙）における目標

(1) 主体的で思考の交流のある分かる授業づくり

「課題解決に向けた協働的な学び等の仕掛けにより、自ら学び、自ら考える力が育成される授業づくりがなされているか」

項目	肯定的な回答の割合 (H28 の値)
① 学習の目標（めあて・ねらい）とまとめを書いていたか	90%以上 (小6:94.7% 中3:86.4%)
② 授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っていたか	80%以上 (小6:82.1% 中3:64.6%)
③ 学級やグループの中で、自分たちで立てた課題に対して、自ら考え取り組んでいたと思うか	80%以上 (小6:78.2% 中3:75.8%)
④ 授業で自分の考えを発表する機会が与えられていたか	85%以上 (小6:86.9% 中3:89.5%)
⑤ 学級の友達との間で話し合う活動をよく行っていたか	85%以上 (小6:87.2% 中3:85.2%)
⑥ 学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができているか	75%以上 (小6:72.4% 中3:70.0%)
⑦ 自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりすることは難しいと思うか	50%以下 (小6:55.7% 中3:69.5%)
⑧ 文章やわけを書く問題に最後まで解答を書こうと努力したか	75%以上 (小6:76.1% 中3:61.1%)

(2) 安心して学べる学習環境づくり

「自尊感情や規範意識が醸成され、仲間と共に高め合いながら夢に向かい努力する姿勢が育成される学習環境が構築されているか」

項目	肯定的な回答の割合 (H28 の値)
① 授業中の私語が少なく、落ち着いていると思うか（学校質問紙）	90%以上 (小6:80.0% 中3:100%)
② 児童生徒は、礼儀正しいと思うか（学校質問紙）	95%以上 (小6:93.4% 中3:100%)
③ 学校のきまり（規則）を守っているか	95%以上 (小6:95.5% 中3:96.5%)
④ 自分にはよいところがあると思うか	80%以上 (小6:78.9% 中3:77.3%)
⑤ 将来の夢や目標を持っているか	85%以上 (小6:85.6% 中3:72.0%)
⑥ 人の役に立つ人間になりたいと思うか	95%以上 (小6:95.3% 中3:95.6%)
⑦ 学校に行くのは楽しいと思うか	85%以上 (小6:86.1% 中3:84.1%)
⑧ 先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思うか	85%以上 (小6:89.4% 中3:83.8%)

(3) 学校と家庭・地域との協働体制づくり

「家庭と連携した基本的な生活習慣や学習習慣の定着と、学校と家庭・地域との結びつきを意識した授業づくりがなされているか」

項目	肯定的な回答の割合 (H28 の値)
① 家で、自分で計画を立てて勉強しているか	65%以上 (小6:69.7% 中3:49.2%)
② 学校の授業以外で、1日当たりどれくらいの時間勉強をするか(塾・家庭教師含む) 普段及び休日	1時間以上 小6 75%以上 (66.0%) 中3 80%以上 (61.5%)
③ 普段(月～金)1日当たりどれくらいの時間、テレビ・ビデオ・DVDを見たり聞いたりするか	2時間以上 小6 55%以下 (54.4%) 中3 50%以下 (53.4%)
④ 普段(月～金)1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム、携帯電話やスマホを使ったゲーム等をするか	1時間以上 小6 50%以下 (54.4%)
⑤ 普段(月～金)1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマホで通話やメール・インターネットをするか	1時間以上 中3 45%以下 (45.7%)
⑥ 授業時間以外に、普段(月～金)1日当たりどれくらいの時間読書をするか	30分以上 小6 40%以上 (33.2%) 中3 35%以上 (32.1%)
⑦ 「総合的な学習の時間」に学習したことは、普段の生活や社会に出たときに役に立つと思うか	80%以上 (小6:83.2% 中3:76.5%)
⑧ 今住んでいる地域の行事に参加しているか	50%以上 (小6:78.7% 中3:45.1%)
⑨ 新聞を読んでいるか(月に1回以上)	45%以上 (小6:44.4% 中3:41.8%)

4 学校評価における目標

市内すべての小・中学校において、学校評価の学力向上に関する評価項目の平均肯定値が、**80%以上**となる。

- (例) ① 「児童生徒が、進んで学習に取り組んでいる」という教職員・生徒・保護者アンケートの結果が85%以上
- ② 「児童生徒が、授業がよく分かると感じている」という教職員・児童生徒アンケートの結果が80%以上
- ③ 「家庭学習の習慣が身に付いている」という教職員・生徒・保護者アンケートの結果が70%以上

等

5 学校適応感尺度（アセス）における目標

(1) 学校適応感（六つの評価項目）の測定平均値（M）が**4.0P**を目指す。

学年	H28	H27	H26	H25	H24	H23	H22
小学校第3学年～ 中学校第3学年	3.92	←3.86	←3.82	←3.78	←3.79	←3.70	←3.67

IV 取組

三つのアプローチ

- 1 主体的で思考の交流のある分かる授業づくり
- 2 安心して学べる学習環境づくり
- 3 学校と家庭・地域との協働体制づくり

(1)内容

主体的で思考の交流のある分かる授業づくり

取組	内容
① 「学力・学習状況改善プラン」を作成し、分かる授業づくりを学校全体で推進 視点 基礎的な知識・技能の確実な習得と、言語活動を重視した自ら学び、自ら考える授業の充実を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 全国及び岡山県学力・学習状況調査等を基に、学力向上のためのPDCAサイクルを確立するよう、子ども一人一人の学力や学習状況を評価、検証を行う。 学校 ・ 全国及び岡山県学力・学習状況調査等を基に、分かる授業づくりに向けて、市全体の実態を分析し、学校に情報提供する。 市教委 ・ 各小・中学校において、「めあて・ねらい」と「振り返り」のある授業を定着させ、児童生徒自身が何を学んだか実感できる授業を行う。 学校 ・ 各校の実践について、2・3学期末にそれぞれ達成状況を評価、検証し、改善を図る。 学校 ・ 学力向上担当者会及び中学校区別研修会を実施し、中学校区ごとに授業改善の取組の情報共有を図る。 学校・市教委 ・ 学力を中心課題としている学校への訪問・個別支援を行う。 市教委 ・ 基礎的な知識・技能の習得に役立つ教材、指導方法を提案する。 市教委

<p>② 協同学習の手法を活用した授業づくりの推進</p> <p>視点 単元や領域の中で意図的、計画的に取り入れ、学習意欲を高めるとともに、思考力・判断力・表現力を育成するための手立てを工夫し、協同学習の質の向上を目指す。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 協同学習の手法を用いて、課題解決に向け、基礎的な知識・技能を活用した主体的な学びが確保できる授業を実践する。学校 協同学習の手法を用いて、自分の考えを説明したり書いたりする学習活動を単元や領域の中で意図的、計画的に取り入れるとともに、各教科等の学習指導において、思考力・判断力・表現力を育成するための手立てを工夫し、実践を積み重ねる。学校
<p>③ 授業研究の充実</p> <p>視点 授業研究を活性化（モデル授業の実施）し、指導力の向上を目指すとともに、総社市における研修・研究を改善・充実する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 校内研究を活性化するとともに、指導教諭や授業改革推進員によるモデル授業を公開することで、授業研究の充実と指導力の向上を図る。学校・市教委 授業公開及び研究協議に校種を越えて積極的に参加し、小中高の連携を一層強化する。学校・市教委 市教育研修所の班別研修等の自主的な研修を支援し、アクティブ・ラーニングに関する研修や模擬授業等を通じた実践的な研修を推進する。市教委
<p>④ 若手教員（市費負担職員含む）の指導力向上のための研修の充実</p>	<ul style="list-style-type: none"> 新採用5年目まで教諭、県費常勤・非常勤講師、市費講師等に対する指導力向上のための市の研修を年2回実施する。市教委

安心して学べる学習環境づくり

取組	内容
<p>① 児童生徒の良好な人間関係づくり「だれもが行きたくなる学校づくり」の推進</p> <p>視点 日々、ピア・サポートのある学校風土を醸成し、互いに高め合うことのできる学級・学校づくりを推進する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 異学年交流等の多様なピア・サポート活動の実践によって、リーダーシップ、思いやりの心、感謝する心、支え合う力等を育む。学校 自尊感情（自己肯定感や自己有用感等）を高める活動を行うことによって、意欲や忍耐力を高めるとともに、自分らしい生き方を追求する力等を育成する。学校 SEL（社会性と情動の学習）のプログラムをスパイラルで系統的に実施し、ロールプレイやグループワークなどの体験的学習、資料を用いた学習等を通して、対人関係に関するスキルや価値観を身に付けさせる。自分の感情を察知し、コントロールし、ストレスに対処できるスキルの発達を促す。学校

<p>② 保こ幼小中 15 年間を見通した生活習慣や学習基盤を育成するために、小中連携による学習規律・学習環境の標準化を推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「総社っ子学びの基本」として、子どもたちの発達段階に応じた身に付けたい力を示し、標準化を図る。 市教委 ・ 中学校区で情報を共有し、9年間を見通した学習規律の徹底や家庭学習習慣の定着など、<u>スタンダード化した指導方針を徹底する</u>。特に、各中学校区で統一したメディアコントロール週間等の<u>取り組みの徹底</u>を図る。 学校 ・ 授業中の机上の整頓、話しの聞き方、学習の準備等に関わる学習規律を各学年の発達段階に合わせて設定する。 学校 ・ 小中連携加配教員を中心とした高学年への授業アシストや、中学校教員による小学校への乗り入れ授業、「だれもが行きたくなる学校づくり」サテライト研修での授業研究を実施することにより、幼小中が協働した授業研究を推進する。 学校・市教委
<p>③ 中学校区等における特色ある学校づくりを推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 確かな学力の向上に向けた中学校区における取組等の特色ある学校づくりを推進するために、<u>学校力向上「きらめき交付金」制度の一層の充実</u>を図る。 市教委

家庭・地域との協働体制づくり

取 組	内 容
① 学びのサポートチーム	<ul style="list-style-type: none"> 学校力向上教員加配事業により市費による生徒指導員、別室登校指導員、ＳＣＣ補助員、講師（授業改革・教科指導・日本語指導）等を配置し、少人数指導等のきめ細かな指導の充実を図る。 市教委
② 多様な子どもへの支援 視点 15年間を見通した基盤づくりのため、保幼小中の連携による自立への支援を強化する。	<ul style="list-style-type: none"> 学校力向上教員加配事業により市費による特別支援教育講師、特別支援教育支援補助員を配置し、特別な支援を要する子どもの教育的ニーズに応じた学習支援、コミュニケーション支援を図る。 市教委 スクールカウンセラーや専門相談員による<u>巡回相談</u>を実施し、多様な個別の相談ニーズに応え、学校と家庭との連携を更に強化する。 市教委 個別の教育支援計画等を引き継ぐ体制を確立し、保幼小中の連携を強化する。 学校・市教委
③ 学習習慣の定着 視点 家庭と連携し、小学校中学年になるまでに学習習慣の定着を図るとともに、放課後の学習サポート及び長期休業中の補充学習を実施する。	<ul style="list-style-type: none"> 授業規律・しつけの徹底と学校全体で学習習慣の定着に向け、課題の出し方や課題のチェック方法がある程度統一する。（学校園ごとの長期及び短期の課題に対する共通理解等） 学校 家庭での自学自習を促進する課題の出し方や教材を研究・工夫をする。 学校・市教委 放課後の学習サポートを実施し、家庭学習との連携を図る。 学校・市教委 地域に開かれた土曜日授業を実施する。 学校
④ 地域人材の活用 視点 学校評議員会や学校支援地域本部事業等を活用したり、学習支援ボランティア等を積極的に推進したりする。	<ul style="list-style-type: none"> 地域の人材を活用し、「学習支援ボランティア」を積極的に推進する。 学校・市教委 読書活動の推進のため、地域の人材を活用した「読み聞かせ」活動等を推進する。 学校 学校評議員会や学校支援地域本部事業等を活用する。 学校
⑤ 家庭・地域への情報公開・共有	<ul style="list-style-type: none"> 広報、ホームページ等を有効活用し、学校園と家庭・地域との役割分担と協働体制の充実を図る。 学校 学力・学習状況調査の分析と課題の公表をし、家庭・地域との共通理解を図るとともに、協力を得られるようにする。 学校・市教委

V 検 証

1 検証計画

- (1) ①学校 ②中学校区別 ③市全体(市教委)の三つの単位で現状を把握し、検証を行う。
 (2) 次の調査等によって改善のための検証を行う。

- ① 全国学力・学習状況調査
 (小学校第6学年・中学校第3学年対象、年1回4月実施)
- ② 岡山県学力・学習状況調査
 (小学校第3学年～第5学年、中学校第1・第2学年対象、年1回4月実施)
- ③ 総社市標準学力調査
 (小学校第5・6学年・中学校第2学年対象、年1回11～12月実施)
- ④ 学力向上担当者連絡協議会(総社市・岡山県・全国の調査結果公表後の年3回実施)
- ⑤ 学力向上中学校区別研修会(年2回実施)
- ⑥ 学校評価アンケート(各学校において実施)
- ⑦ 学校適応感尺度(アセス)(年2回実施)

	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度
小3(県調査)	全国調査			
小4(県調査)	H29調査の検証 全国比上回る学校10校以上 下位層15%以下 上位層38%以上	H30調査の検証 全国比上回る学校15校以上 下位層14.5%以下 上位層39%以上	H31調査の検証 全国比上回る学校19校 下位層14%以下 上位層40%以上	3年間の全国調査の検証・次プラン作成 下位層14%以下 上位層40%以上
小5(県・市調査)				
小6(全国・市調査)				
中1(県調査)	県調査			
中2(県・市調査)	H29県調査の検証 岡山県比+1P 下位層15%以下	H30全国調査の岡山県比+1.5P 下位層14.5%以下	H31全国調査の岡山県比+2P 下位層14%以下	3年間の県調査の検証 岡山県比+2P 下位層14%以下
中3(全国調査)				
担当者会 中学校区別 研修会	H29調査結果の分析・プランの検証改善・取組	H30調査結果の分析・プランの検証改善	H31調査結果の分析・検証改善・次プランの作成	3年間の総括・第三次プランへ
学校評価	各学校で 学力向上に向けたアンケート項目を設定 学校評価書資料に示し、年次ごと学校経営に生かす			
アセス	各校で分析 指導・支援に反映 +0.04P	各校で分析 指導・支援に反映 +0.08P	各校で分析 指導・支援に反映 +0.12P	
	H31 末時点の検証 +0.14P			

Ⅵ 改善

短期（年2回）のP D C Aサイクルによって、検証・改善を繰り返し、事業や取組内容に反映させる。

これを平成29年度から平成31年度までの長期のP D C Aサイクルの中でスパイラルに推進することによって、第2次学力向上「総社っ子輝きプラン」の目標を達成する。

平成32年度の年度当初に実施する学力・学習状況調査等の結果を受けて、平成31年度までの3年間の取組の統括を行い、次のプランへつなげる。

- (1) 全国及び岡山県学力・学習状況調査等によって学力や生活状況を評価、検証し、改善を図る。
- (2) 校内の実践について、総社市標準学力調査や学校評価アンケートを活用し、2・3学期末にそれぞれ達成状況を評価、検証し、改善を図る。

